

令和4年 8月25日～8月27日 海瀬先生 研修報告

テーマ「ダウン症児の発達支援（移動）」

ケース 生後8ヶ月 ダウン症児

<姿勢>

立位姿勢⇒①姿勢レパトリーとしての立位②治療手段としての立位

伸筋群の働きの未熟さに対して伸展方向の運動パターン学習が必要と考える。

そのため、抗重力活動（座位・立位）の中で支持面を前面だけでなく、背面に位置させる機会を増やしていく。

<移動>

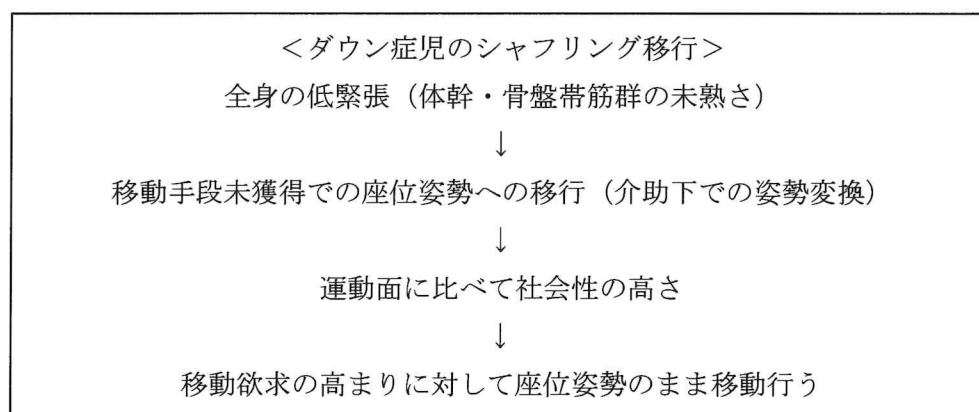
腹臥位姿勢で反り返るような伸展運動の運動パターンみられる。伸展運動パターンでは前方への移動は困難であるため、一側下肢の屈曲を徒手的に促し交互性のずり這い移動へと移行させていく。

<家族支援>

抱っこ姿勢のレクチャー実施。

介助者側に抱き寄せ、介助者の身体と腕で挟み込む形を作る。

⇒座位など抗重力姿勢での正中保持困難に対し、体幹の安定性の向上を促す目的で行う。



<靴の適応> 確認するポイント5点

①踵の月形芯（ヒールカウンター）

歩行時に踵を安定させる。

②前足部の蹴り返し（ボールフレックスライン）

前足部は蹴り出しの際柔軟に曲がる構造が前方への推進力に関わる。

③踵の踏まず芯（シャンク）

靴のねじれを抑制して安定性を高める。

④シューズ固定ベルト（アーチバンテージ）

足の甲を支え、動く足部を靴の中に安定して保持し靴底の追従性を高める。

⑤先芯、巻上底（トゥスプリング）

つまずきを防ぐためつま先が上斜方向に向いている。

